

令和6年度 住みよしみやぎづくり功績者表彰対象者

○表彰の趣旨 住みよしみやぎづくりを推進するため、地域社会に貢献する功績のあった者を表彰する。
昭和45年度から平成17年度まで実施していた県民の隠れた善行や小さな善意に対し表彰する「感謝のことは」を引き継ぐ事業。

○表彰対象者 2者(団体2者)

【団体】

No.	活動区分	団体名	設立年・会員数等	代表者名	活動の内容	活動歴	推薦機関
1	文化芸術の振興	シバタマチキタカイ 柴田町菊の会	1970/4/1	長田 達雄	菊栽培を通じた文化振興 柴田町菊の会は、昭和45年大河ドラマ樺ノ木は残った放送開始に伴い、船岡菊の会と、槻木菊の会が合併し、柴田町に訪れる観光客に、秋の風物詩として菊人形まつりに併せて菊を提供するほか、観賞用の菊を栽培し柴田町菊花品評会や、全菊連宮城県支部競技花大会、宮城県大菊花展後に名称をみやぎ大菊花展柴田大会と変更し、宮城県内北は栗原市、南は白石市の菊花愛好者が丹精を込めた見事な菊花を会場に展示し、柴田町及び宮城県の代表的な秋の風物詩として開催している。また、菊づくりを後世に残そうと、一般社団法人全日本菊花連盟東北・北海道地区・菊づくり公認指導員、審査員養成研修会及び菊づくり研修会を平成18年、平成30年に県内で開催するほか、平成8年には(一社)全日本菊花連盟全国大会を柴田町内で開催するなど今年で55年もの間、柴田町の観光振興及び宮城県観光振興に尽力した。	54年	柴田町
2	文化芸術の振興	オナガワコウタロウ 女川・光太郎の会	1992/3/13	須田 勘太郎	高村光太郎の顕彰活動を通じた文化振興 彫刻家・詩人の高村光太郎の顕彰活動を行う。昭和6年8月に三陸沿岸を巡る旅の途中で女川を訪れ、数々の詩や紀行文などの作品を残した高村光太郎を顕彰するため、平成3年、町民等から広く寄付を募り、高村光太郎の三つの文学碑を女川港に建立。翌年からは、「光太郎祭」を毎年開催し高村光太郎にまつわる記念講演、ギタリスト及びオペラ歌手による献奏・献歌、地元の小学生らによる光太郎作品の朗読などを通じ、若者への文化の継承を図っている。 東日本大震災により文学碑は津波に流されてしまったが、女川町の協力などにより、令和2年に復旧された。光太郎祭は、今年で33回目を数え、毎回、女川町内に限らず、広く県内外から参加者が集まっている。	32年	東部地方振興事務所